

科目名	情報機器論
科目分類	社会情報学部-司書課程
担当教員名	角田 真二
ローマ字	Tsunoda Shinji

1. ねらい

人々や社会は意識するとしまいと、さまざまな情報を収集、整理して、新たな行動のための意志決定の材料として活用しています。したがって、情報とは何か、情報はいかなる手段(メディア)によって表出され、伝達されるかを理解することがまず大切です。情報のメディアは、古代から今日まで、その形態の進歩はあっても文字・画像・映像・音声・音響がその基本であることは変わっていません。これらのメディアによって作成・表出された情報が活用されるにはほとんどの場合、次のプロセスを経ることになります。情報の作成、保存、蓄積、発信、伝達、受信、情報の収集、整理、検索などです。したがって、情報を最大限に活用するためにはこれらのプロセスに用いられる機器の原理を理解しておくことが大切です。特に、近年の電子技術の進歩により、情報の多くが電子化情報すなわちデジタル情報として処理されるようになってきました。コンピュータを初めとする電子・磁気機器、光学機器については原理のみならず活用能力を修得することが情報処理担当者、図書管理担当者、情報・図書サービス担当者にとって必須要件となってきています。

2. 内容

1. 情報作成手段、機器の発達をまず概観します。文字情報の作成機器 音声・音響情報作成機器 画像・映像作成機器 2～3. 情報保存・蓄積媒体と機器の発達を学びます。情報の発信・送信・受信の媒体と機器の発達を学びます。4. マルチメディア情報処理装置としてのコンピュータについて、パーソナルコンピュータの仕組みを中心に学びます。(1) コンピュータの仕組み ハードウェア：コンピュータと周辺装置 ソフトウェア：基本ソフトウェアと応用ソフトウェア (2) 情報のデジタル化としての2進数 (3) コンピュータ通信ネットワーク (LANとインターネット) 5～6. 電子図書館とデータベースシステム、インターネットの利用 デジタル映像機器としてのビデオカメラ、デジタルビデオカメラの機構とコンピュータによる画像処理 7. コンピュータのハードウェアとしての情報保存媒体と装置 磁気記録媒体(磁気テープ、フロッピーディスク、ハードディスク)、光反射記録媒体(光-表面構造(CD、DVD) 光-磁気構造(MO、CD-RW、DVD-RAM) 光-分子構造(CD-R、PD))、ICメモリー(スマートメディア、メモリースティック、コンパクトフラッシュなど)、印刷機器(レーザープリンター、インクジェットプリンター)、DTP) 8. 情報の発信、伝達(送信)、受信 通信媒体(有線(電話回線と光ケーブル)、無線、レーザー光線)、携帯電話・PHSとインターネット

3. 評価

毎回提出してもらおうレポート、150点満点(15回X10点満点)で、90点以上を合格とする。

4. 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)